

東北地域の「一帯一路」協力の進展と北東アジア国際協力

黒龍江省社会科学院東北アジア研究所長

筧志剛

2013年9月と10月、習近平中国国家主席はカザフスタンとインドネシアにおいて、「一帯一路」（「新シルクロード経済帯」と「21世紀海上シルクロード」の戦略構想）の概念を提起して以来三年あまり、理論的な模索と先行した実践が行われ、シルクロード基金の設立、アジアインフラ投資銀行の成立、二国間の協定の着地、国際生産能力協力の拡大など、「一帯一路」建設は顕著で段階的な成果を得た。

「一帯一路」の重要な構成部分として、東北地域は国境地域と海に面するという地理的条件が戦略的に優位であり、ロシア極東地域に対する陸と海の面での協力を推進し、対口鉄道ルートと地域の鉄道網を整備し、ユーラシア高速輸送回廊を構築し、西へのユーラシアランドブリッジを開通し、日本や韓国、東南アジアおよび沿海省とドッキングさせ、とりわけ中モロ経済回廊を建設するうえで、位置が独特で、合致点が高く、潜在力が大きい。

東北地域の経済成長が減速し、成長力が乏しく、外需が減少して、矛盾が重なり、振興の難易度が拡大しているというボトルネックに向き合い、「一帯一路」に対する国家協力を組み込んで深化させ、「中モロ経済回廊建設計画」プロジェクト協力を参与することは、東北の新しい全面的な振興を推進する重要な支えとなるだろう。

東北三省も積極的に「一帯一路」に参加し、そのプロジェクトのもとでの各種の戦略協力で経済の態勢を挽回し、困難を脱する重要なきっかけとし、貿易規模を拡大し、投融資メカニズムを強化して、企業の海外進出を促進して、越境ルートの建設を早め、自由貿易区のデザインを計画し、人文・観光協力等の分野でいくつかの積極的な変化を際立たせている。

それと同時に、東北地域は「一帯一路」戦略に組み入れられると同時に、隣接する北東アジアの地縁・地理的な位置・歴史と人文等の多くの有利な条件を利用し、北東アジア地域の地縁的な局面における複雑な変化と二国間・多国間の不確定要素が突然増加する状況のもと、地方政府レベルでの多元化協力を積極的に拡大し、対ロシア・日本・韓国・モンゴル等との二国間・多国間協力において新しいメカニズムを計画し、一連の進展を得ている。

将来を見渡すと、東北地域は全面的に振興する新しい道を実現し、各省の戦略的な組み合わせの優位を発揮し、継続して「一帯一路」のもとにおける中モロ経済回廊建設等の様々な戦略を着実にドッキングさせ、外からの発展の活力を有効に活性化させると同時に、内生的な発展の動力も活性化して、北東アジア協力を拡大して旧工業基地の新ラウンドの供給側改革を推進し、日本・韓国に対する協力を拡大して、外部で発展する新環境を拡大し、「一帯一路」と北東アジア地域協力の両輪で経済社会の発展をけん引して、新しい局面を出現させることが必要とされる。

[中国語原稿を ERINA にて翻訳]